

PUPA

1999
5
Vol. 2

生活情報誌 : まず私たちに出来る事から始めましょう



関西ダイアリース協同組合

まず私たちに出来る事から始めましょう

生活情報誌PUPA創刊号で、特集『環境にやさしい布おむつ』と題して、環境問題の先進国アメリカ・カナダの視察報告とダイオキシンの少し触れましたが、この号ではもう一步踏み込んで、いま私たちが出来るダイオキシン対策を含め『環境にやさしいゴミ処理』に取り組んでみたいと思います。

都市ゴミを燃やせば ダイオキシンが発生

ダイオキシンの大部分は一般都市ゴミの焼却によって発生しています。また、産業廃棄物処理や金属の製造過程での排煙、紙やダンボールなどの板紙の塩素漂白、医療廃棄物の焼却等からもダイオキシンは発生します。しかしなんとといっても、私たち自身が出したゴミの焼却からが一番多いのです。生ゴミに含まれている水分、塩分も発生の原因の一つです。

は炭素／水素／塩素で、これらに熱が加わって特殊な結びつき方をすると発生します。プラスチックやビニールの原料(塩じ)類を、燃焼温度が三〇〇度から六〇〇度ぐらいの時、そして不完全燃焼の際にダイオキシンが最も多く発生すると言われています。焼却施設が完全燃焼に近い八五〇度以上の高温で燃やす能力があれば、ダイオキシンは発生しません。

しかし、かなりの高性能の炉で燃やしたつもりでも固まりとなったゴミの内部で高温になりきれない部分があり、そこで、ダイオキ

シンが作られるとも考えられます。ゴミを均一に高温で燃やしきるのは、とても難しいようです。

明日にでも多くのダイオキシンの被害が出てもおかしくないのが現状なのです。被害が目に見えるようになる前に、未然に防止しなくてはなりません。そのため私たちにいま出来る事を、明るい未来のために前向きに取り組んでいかななくてはなりません。

ゴミを極力減らし 物は大事に使う

私たちが追求してきた「快適ライフスタイル」は、一見豊かで恵まれたもののように映ります。けれどもこれは大量生産、大量消費、大量廃棄をベースにしたもので、さまざまな環境問題を引き起こしています。私たちが出すゴミを燃や



すことによって、環境を悪化させているのですから、今すぐにもゴミを減らさなくてはなりません。

ゴミを少なくする秘訣は、第一にゴミになるものを作るべく購入しない。第二にモノを大切に長く使う。第三に不用になった場合にはリサイクルする。等一人ひとりが生活を考え、資源を大切にして、環境に負担をかけないように心掛けなければなりません。

1 資源消費を減らす

A 買い物には、買い物袋や買い物力ゴを持参。過剰

包装を断り、簡易包装を進める。

B 食料品は、ムダにならないように必要なだけ買う。

C 衣料品は、材質的にも長

く着ることが出来、愛着

の持てるものを買う。

D 家電製品などの耐久消費

財は、長持ちし、部品の

保存が長く、修理体制の

整っているものを選ぶ。

E 使い捨て商品は、なるべく

く買わず、同じ用途なら

リサイクル製品等を選ぶ。

F リターナブルビンを使用

した製品や詰め替え用製品など、廃棄する割合の少ない製品を選ぶ。

G 旅行カバンや乳幼児用品

など、使用期間と耐久年

数に差のあるものは、積

極的にリースを活用する。

H 不要なダイレクトメール

は「受け取りません」と

封筒に明記して投函する。

デポジット制度

デポジットとは、正式には英語のデポジット・リファンド・システム (Deposit Refund System) のことで、日本語では、預り金払い戻し(金)制度と言います。

これは容器への預け金を製品料金に含み、容器返却時に払い戻すことによって、返却に動機づけをすることにも、返却されない場合であっても、使用した消費者に公平な費用負担を与える効果がある優れた制度で、実施した諸外国で有効性が実証されています。アメリカの一〇の州では、飲料容器に州の法律で、デポジットを義務づけています。先鞭をつけたのはオレゴン州で、今から二十七年前の一九七二年に州法で制定されています。

我が国での具体的な事例としては、茶色のビールビンで行われています。消費者が購入時、一定金額(ビールビンの場合、通常は五円)をビン代として支払い、飲んだ後空きビンをお酒屋さ

んに返却すれば、その金額(五円)が払い戻されるという仕組みです。

しかし、我が国のビールビンにみるデポジットシステムは、なんと法律の裏付けはありません。ワンウェイ容器を使用するよりも、リターナブル容器を使用する方が、メーカーにとって経済的に有利であるというコスト分析がその背景にあります。メーカーの自主的判断で行われています。

ここで大事なことは、返却された容器を逆流通し、リターナブル容器として洗浄・殺菌して複数回再利用することにあります。さらに、この逆流通の責任と費用負担がメーカーによって行われていることが最大の特徴です。茶色のビールビンの場合、平均一五回再使用されていて、リサイクル率で評価しますと九五%にあたります。

しかし一升瓶やその他の多くのビンはデポジットではありません。ある程度の需要や、流通経路があるにもかかわらず、ワンウェイ

容器(缶・紙パック等)が増加して、ビンの利用度が低くなり、物流費や人件費等の経済的な諸要因から、新ビンとの価格差がなくなり、サイクルシステムが機能しなくなる危機に面しています。

環境先進国では、デポジット制度を施行させると共に、リターナブル容器の普及が進んでいて、同時にその他の制度面においてもリターナブル容器の使用を保護し、促進する取組み(リターナブル容器の使用義務づけ・ワンウェイ容器への課税・リターナブル容器の高い割合での使用率確保など)が進んでいます。

我が国でもデポジットによって、ビンに経済的な価値を付加していくことで、環境を促進することも必要ではないかと思われれます。

2 再利用する

A 衣料品は、ほころびをつくらつたり、子供服にリフォームするなどして長く使う。

B 電化製品など耐久消費財は、直せるものは修理して長く使う。

C まだ使えるが、いらなくなったものは、知人に譲るか、バザーやフリーマーケットなどへ提供、交換する。

3 リサイクルする

A 空き缶や空きビン、トリーなどの容器は、資源回収、販売店店頭回収に出す。

B 古新聞や段ボールなどの古紙は、まとめて束ね、



資源回収などに出す。

C古布は、資源回収などに出す。

最近のスーパー、生協、

コンビニエンスストアでは、「包装」「ゴミ削減対策」「リサイクル品の回収」「環境全型商品の取扱」など環境を意識した運動が広まっています。積極的に参加しましょう。

ゴミの分別から始まる環境保護

いくら買わないようにして、リサイクルに精を出してもゴミは必ず出てきます。ですからゴミの分別が重要になってまいります。ほとんどの市町村では何らかの形で分別収集がされています。面倒だなんて言わないで、積極的に分別しましょう。これが一番簡単な環境保護です。

同じ買い物をするなら、リサイクル運動に力を入れているお店で買い物をしましょう。買い物かご持参運動や、積極的にエコマーク商品、リサイクル商品を

扱っているお店を利用することで、環境に配慮した経済活動を促すことになりま

す。
肉や魚が乗せられているトレーをゴミに出していませんか？大抵のスーパーにはトレーの回収ボックスが用意されています。家庭で水洗いしてボックスに入れば、それであなたもリサイクルに参加できたことになり

ます。
地方自治体によって、種類の仕方はいろいろですが、分別の際に必要な注意事項とマナーとしては、

- ・生ゴミ…水分はよく切ってから出す。
- ・紙おむつ…汚物はトイレで流す。



- ・PETボトル…水洗いして、キャップは外す。

- ・割れたガラス・陶器…「キケン・ガラス」などと

赤書きする。

- ・スプレー・カセットボンベ…爆発防止のため必ず穴をあける。

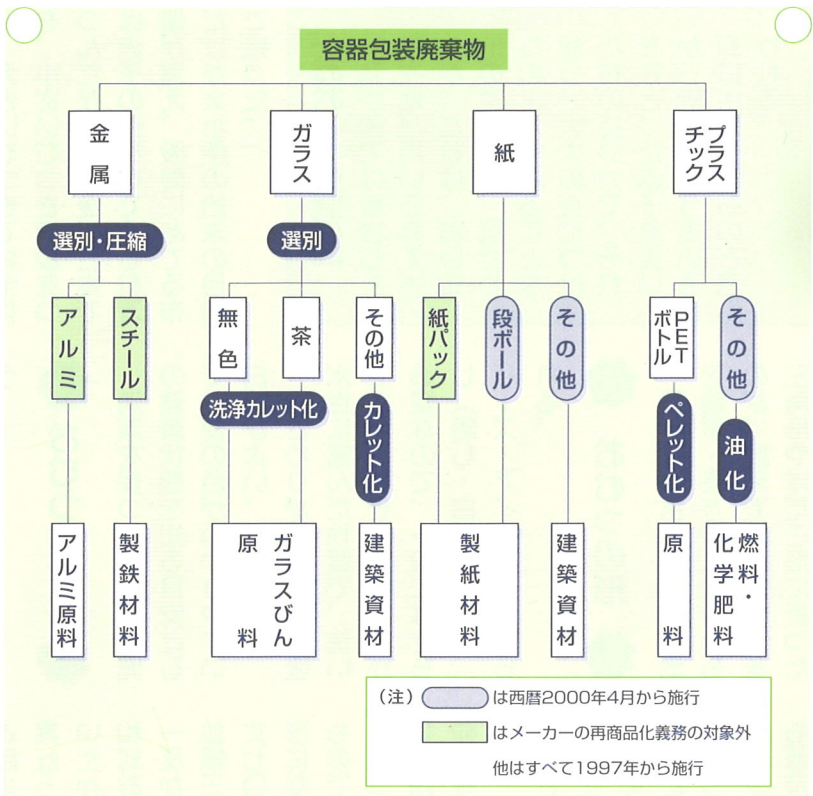
などの心遣いが欲しいものです。

回収・リサイクルを考える

これまでのゴミ処理問題は、いかに適正に処理するかに重点が置かれていました。しかし、埋立地(最終処分場)の空間的問題や、焼却時に排出されるCO₂(二酸化炭素)の地球温暖化に及ぼす影響、そして有限な資源の有効活用などの観点から、ゴミそのものの量を減らすことに焦点が移ってきました。そのもっとも有効な手段が、リサイクル(再生利用)なのです。リサイクルは、ゴミになる物質の再資源化により、ゴミの減量や資源の有効活用に役立つとともに、生産活用

別表1 家庭から出るゴミの分類

ゴミ		資源					大型ゴミ
可燃ゴミ	不可燃ゴミ	有害ゴミ	古紙	空き瓶	空き缶	古布	
生ゴミ 天ぷら油 紙おむつ 枝葉・草花	トレー ビニール類 ガラス・陶器 PETボトル	乾電池 電球・蛍光灯 鏡 体温計 温度計	新聞紙 書籍・雑誌 折込みチラシ ダンボール	食料・調味料 飲料水 酒・ビール・ ウイスキー類	ビール・ ジュースの缶 菓子・海苔・ 缶詰類 スプレー缶	衣類 シーツ・毛布 タオル	ふとん・ カーペット 家電製品 家具類 自転車



にとまなうエネルギー消費の抑制にもつながります。しかしながら、ここで大きな落とし穴があります。リサイクル出来るからといって大量生産・大量消費・大量廃棄をしていたのでは、却って環境問題を悪化させてしまうということに留意しておくことが大切です。また、資源から製品、消費、廃棄に至る流れのそれぞれ

の段階で資源の有効活用、再生利用の検討を加え、資源を大切に使うていく意識を高めていく必要があると思います。

容器包装リサイクル法に注目

わが国では「再生資源の促進に関する法律」(リサイクル法)に基づき、廃棄物

消費者は分別、自治体は回収、事業者は再商品化を受け持つことで、容器包装のリサイクルを円滑に進めるシステムになっています。また、排出者責任を打ち出して再商品化の責任を事業者に課す一方、リサイクル費用は商品価格に適切に反映させ、消費者一人ひとりが応分の負担をすることを前提としています。

自分一人が何をしたらいいかわからないではないか、自分一人の力では世の中は変わらない、という考え方も確かにありますが、一人ひとりがしなければ、いつまでたってもダイオキシンから自分たちや、子供を守ることが出来ません。面倒なことですが、快適な環境に住むために、我々が果たさなければならぬ義務ではないかと思えます。

おわりに

究極のゴミ対策は、リサイクル社会の構築だといわれます。しかし、現在のよう大量生産・大量消費・大量廃棄型社会では、リサイクルしやすい製品の開発や規格の統一などが今後必要になるでしょう。

そのコストを、メーカーはもちろん、消費者も負担していかない限り、リサイクル社会の実現は難しいでしょう。ゴミの処分にはお金がかかるのだという認識を持ち、まずはゴミを極力出さないことから始めなくてはなりません。

お・む・つ ア・ラ・カ・ル・ト

名称の由来

おむつは(むつき(襦褌))に由来する。褌は体をくるむ布、襦はそれをしぼるひもを意味し、もともと生れたばかりの赤子の体をくるむ布をさしていた。

むつきには大小二種があり、大きいむつきで体全体を、小さいむつきで股をつつんだが、その後、日本では赤子の体を布でくるむ習慣が消え、股間にあてる布だけが大小便の始末の目的で残った。

【おむつと信仰】

我が国では着古した浴衣地が用いられてきたが、これは、古い布地の柔らかさ、肌ざわりのよさもさることながら、大人の身につけた布の持つ力で、それをまとった赤子を災いから守るという古い信仰に由来するものと思われる。

おしめ(御湿)ともいう。

おしめは「湿し」の女性用語で、排尿を意志でコントロールできない乳幼児、あるいは自力で用が足せない病人、老人の大小便の始末のために、腰部、股間に当てる布や紙ナプキンをいう。

おむつの材料

清潔を保つためと、乳児の健康状態を知る目安として、便の色がわかりやすい白地がよい。

肌ざわりが柔らかく、吸水性に富んだ地質で、洗いやすく、乾きの早いことが必要なので、一般にはさらし(晒し・白地の木綿)、バーズ・アイ織等が用いられる。

おむつの形

日本では主に木綿の布地を輪形・長方形に縫ったものが、欧米では四角い布を三角形や洋だこ形に折った

ものが用いられてきたが、

織機の構造の違い、織られる布のサイズが日本と欧米で異なっていたからである。従来の和式おむつは、普通、晒し一反から六つの布を取り、並幅三〇から三四センチ、丈七〇センチぐらいの長方形になるように輪に縫ったものである。

第二次世界大戦後は欧米型の四角いおむつも普及し、伸縮性・吸水性などを考慮して、綾織など降り方にもさまざまなものがある。

また、二十数年前からは乳児の先天性股関節脱臼の予防という観点から、整形おむつと呼ばれる股おむつ(タンザク型、長ダ円形等)も普及している。

おむつのあて方

腰巻のように下肢全体を包んでしまう巻きおむつは最近では見られなくなった。昭和中期、第二次大戦後に普及したパンツ形の当て方が多い。

脚の運動を妨げないように、また乳児の腹部を圧迫しないようへそより下に、濡れる範囲が広がらないように要所に当てる。

並幅長方形のものは、胴に巻く部分を三角形に折りたたみ、中央の股に当てる部分は、縦に半幅に折り、男子は前を厚くし、女子は



後ろの部分が厚くなるように当てる。

なお、股間だけに布を当て、腰まわりを包まない方法（股おむつ）が、先天性股関節脱臼の生後成立を予防するためにすめられ普及している。乳児の体をおおふ部分が少なく、下肢の運動を制限しないのでよい方法である。

股おむつを固定するため

使い捨て世代・ 布オムツ思う

主婦 山本美知子 54
（愛媛県宇和島市）

孫が生れた。泣けば、飛んでいってオムツを見るが、紙オムツでは濡れているのか、分かりにくい。

三十年前の私たちは、泣けばオムツ、次にミルクだと思っていた。晴れた日には、真っ白に洗った布オムツが風にひるがえり、十分に日光消毒されたものを、畳む幸せがあった。雨の日には、スロープや扇風機が活躍し

のおむつカバーも市販されている。排便後はなるべく早く乾いたものと交換し、濡れたときは不快感を覚えて自分から教えるように習慣づけるとよい。

貸しおむつ

日本における貸しおむつ（レンタルおむつ）は、約四十年前にアメリカから導入されたシステムで、現在、

てくれた。

乾燥機はなかったが、工夫する楽しさがあった。私の家だけでなく、今はマンションなどのベランダに、ベビー服は干してあっても、布オムツを見ることはない。

使い捨てという便利さになれた世代に、何度も何度も洗っては使う、という行為は、もう耐えられないことなのでしょう。ほ乳瓶の消毒をしながらやがてこれも使い捨てになるのかなあ、と思ってしまう。（読売新聞98・10・7朝刊／読者のページ「気流より」）

専業、兼業の業者が約一〇〇社ある。

布おむつの洗濯や乾燥に不便な住宅事情、あるいは女性の社会進出に伴ない利用されており、昔は赤ちゃん専用のものであ

ったが、十数年前からは、寝たきりのお年寄りなどを対象にした成人用のレンタルも出ている。

専門の業者が機械化された設備で殺菌消毒、完全乾燥した布おむつを宅配、同時に使用済みのものを回収する仕組みで、育児や介護の負担を軽減する意味で重宝がられている。

外出用やおむつ替えの間が省けると便利性が評価を受ける使い捨て紙おむつだが、使用済みのものは大量のゴミとなって処理されなければならず、これからの時代、難しい問題をかかえていくことになると思われる。



編・集・後・記

ピューパ2号では、私たちにまず出来る事から——とゴミの減量化について考えました。しかし、どこまで行ってもイタチゴッコの感否めません。廃棄物問題の専門家である京都大学環境保全センターの高月紘教授は「後始末より、前始末を！」と廃棄物学会誌で述べておられる。世の中に出現しまった大量のゴミを何とかしようとするより、上流側、すなわち廃棄物になる前の段階で考えようという事。まさにその通り。要らぬ物は、出さないに限るのだ——と合点がいった。

厚生省認可環第608号
全国ダイパーリース協同組合連合会加盟
関西ダイパーリース協同組合

〒651-0086
神戸市中央区磯上通4-1-32 ロイヤル磯上502号
TEL (078) 242-7991 FAX (078) 242-7992

企業一覧

アロー商事株式会社
株式会社 キッタ
株式会社 京宝ベビー
コーベベビー株式会社
山陽ダイパーサービス株式会社
サンベビー株式会社
渋谷油脂株式会社
神医協興産株式会社
株式会社東京洗染機械製作所
株式会社 ニック
株式会社長谷虎リネンサービス
株式会社広瀬総合保険事務所
姫路ベビーサービス
株式会社ベビーツワン
山基物産株式会社
(50音順)



このパンフレットは再生紙を使用しています。